

2019 年度前期 授業改善アンケート集計結果に対する意見

—大学院全体—

社会イノベーション研究科長 古川 良治

大学院の授業については、全 12 項目のうち 9 項目において、5 点満点で平均 4.50 を超えており、概ね良好な評価が得られていた。中でも「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」(4.93)、「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」(4.85) という評価が高くなっていた。

「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」という項目との相関係数については、「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」(0.64)、「この分野への興味・関心が引き起こされた」(0.42) が相対的に高い値となっていた。また、授業で用いられた授業方法としては「質疑応答」(70.7%)、「課題 (レポート等)」(58.7%)、「ディスカッション」(53.3%) が多く、授業を通じて身についた資質・能力としては「この分野の知識、学力」(92.0%)、「論理的思考力」(69.3%) の順に多くなっていた。

これらのことから、大学院における授業では、質疑応答やディスカッションが積極的に行われ、専門分野への興味・関心を高めると同時に学びを促進している様子がうかがわれる。今後も、授業の総合的評価に関連する諸要因に留意しつつ、一層充実した授業を行っていくことが望まれる。